

オンコロジックエマージェンシーにおける「シミュレーション看護教育」効果検証 織井優貴子¹⁾ *、佐々木雅史²⁾、鈴木克明³⁾

- 1) 青森県立保健大学大学院健康科学研究科、2) 青森県立保健大学健康科学部
3) 熊本大学大学院社会文化科学研究科

Key Words ①シミュレーション看護教育 ② シナリオ作成 ③ 教授（授業）設計

I. はじめに

わが国におけるシミュレーション看護教育の課題は、「患者シナリオ」の作成に時間を要すること、シミュレータの操作訓練を受けている教員やスタッフが少ないこと¹⁾である。「患者シナリオ」は、実例を基にすることで作成しやすくなる²⁾。「シミュレーション看護教育」の教育効果を客観的に評価するために、どの分野にも使用出来る基本的な要素を含んだ「患者シナリオ」は、どの程度の教育成果があるのか客観的に測定する必要がある。

II. 目的

本研究の目的は、インストラクショナルシステムデザインを用いて教育目的を明確にし、(基本的な要素を含んだ³⁾「患者シナリオ」を作成し、教材としてシミュレータを用いた教授方法について客観的に評価することである。

III. 研究の経過

1. 教授設計の点検ワークシート ((c) 鈴木克明) および「学習意欲デザイン」を活用する。
2. シミュレーション教育の目的にそったシナリオ等を作成する。
3. 作成したシナリオが教育目的に沿った教材であるか検証する。
4. 公開検討会および交流集会での研究紹介および意見交換

IV. 成果および考察

1. 教授設計の点検ワークシート ((c) 鈴木克明) 後の新たな教授設計によるデモンストレーションの実施

公開検討会及びハワイ大学 Benjamin 教授からのアドバイスによって、作成したシナリオとそのデモンストレーションは、教育目的を達成でき、かつ、教育教材としてのシミュレータが効果的に活用されているという評価を得た。また、公開検討会参加者から、「シミュレーションデザインスケール」を用いて客観的に教授内容の評価(5段階)を得た結果、平均値 4.3 であり、教育目的に沿った教材の活用であることが示唆された。

2. 教授設計ワークシートを活用したシミュレーション看護教育の可能性について

新たな教育内容や複雑な教育内容を含んだ演習を行う場合には、今までの教授設計ワークシートを活用して教授設計を見直し、対象者(学生、受講生)の人数、それを教授または補助する教員数およびそれに必要な時間を十分に検討したうえで、教材としてのシミュレータの選択が学習効果を高めることが示唆された。

*連絡先：〒030-8505 青森市浜館間瀬 58-1 E-mail: y_orii@auhw.ac.jp

VI. 文献

- 1) 森山美智子 他 3 名：シミュレーション学習による技術教育の強化.看護教育, 47 (9) , 804-809, 2006
- 2)DS Aschenbrenner：ジョズホプキンス大学看護学部における効果的学習環境の創出. INR, 31(4), 30-36, 2008
- 3) Jeffries P. R. A Framework for designing, implementing. And evaluating simulations used as teaching strategies in Nursing. Nursing Education perspectives, 26(2), 28-35, 2005, 他

VII. 発表 (誌上発表、学会発表)

1. 誌上発表

1) 織井優貴子:教材としてのシミュレータを活かすには 授業(教授)設計を見直すことから始めよう. 看護教育, 医学書院 in Press

2. 一般発表など

1) 学会発表 (国外)

1. Orii Y.: Design of Educational Program Using Simulator in Basic Nursing Education: Effect of Simulation Education Using Instruction System Design. 2014 International Meeting on Simulation in Healthcare 2013, 1. Sun Francisco, USA

(国内)

1. 織井優貴子、佐々木雅史、藤田あけみ: 看護基礎教育におけるシミュレータを用いた教育プログラムの設計- インストラクショナルシステムデザインを用いたシミュレーション教育の効果-. 第 14 回日本赤十字看護学会学術集会, 2013,6 (秋田)

2. 佐々木雅史, 織井優貴子、佐藤千雪: 介護老人保健施設に勤務する看護職者への急変時のアセスメントに関する研修. 第 14 回日本赤十字看護学会学術集会, 2013,6 (秋田)

3. 佐々木雅史, 織井優貴子、佐藤千雪: 介護老人保健施設に勤務する看護職者を対象とした「急変時の対応とアセスメントの研修会」の効果. 第 15 回日本救急看護学会学術集会, 2013,11

3. 講演等 (国外)

1. Orii Y : Instruction to the ARCS-V Model of Motivational Design for Learning. The 7 th Halla/Newcastle PBL Center INTERNATIONAL SYMPOSIUM CHEJU HALLA UNIVERSITY , KOREA, 2013,10 (済州, 韓国)

2. Orii Y : Simulation Training in Nursing . The 7th Asian Conference on Emergency Medicine. Tokyo (国内)

1. 織井優貴子(研修会講師): 高性能患者シミュレータを用いたフィジカルアセスメント 研修 (青森県女性薬剤師会主催). 2013, 8 (青森)

2. 織井優貴子(セミナー講師): I S D & A R C S セミナー: 日本医療教授システム学会主催, 2013, 8 (東京)

3. 織井優貴子、藤田あけみ、佐々木雅史、鈴木克明 (交流集会): シミュレータ (高性能モデル人形) を用いたシミュレーション看護教育の実践- インストラクション・システムデザインを活用しましょう! 第 32 回日本看護科学学会 交流集会. 2013, 12 (大阪)

4. 織井優貴子(シンポジスト): 第2回全国シンポジウム 日本の国情・第2次医療圏の実情に合った医師・医療者育成教育の展開を考える 2013 主催 秋田大学医学部

5. 織井優貴子: 「看護教育におけるシミュレータを用いた教育の導入と展開」(社) 日本看護学校協議会 2013, 10(郡山市)